

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和3年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2021-1	特殊車両の折進可否判定の自動化と特車フリー道路ネットワーク計画手法の研究開発	立命館大学 准教授 塩見 康博	A
<p><研究の概要></p> <p>衛星画像データ等に基づいて交差点平面図を生成する手法や、特車の折進可否と通行条件判定、走行軌跡生成を自動化する手法を開発すると共に、速達性や頑健性等の指標に基づく特車フリー道路ネットワーク計画手法を構築する。</p> <p><中間評価結果></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初年度から大きな成果を挙げつつあり、最終成果が大いに期待される。交差点の形状や周辺環境は極めて多様である。その中で折進可否判断を自動的に行うためには、膨大な事例を取り入れる必要がある。多様性を漏れなくカバーできるようなデータベースの工夫を望みたい。 2. 特車の通ることが出来る道路を加味してネットワークを計画することが出来れば、社会に大きく貢献できる内容となると思う。 3. 特車審査事務が大幅に改善し、行政サービスが向上する研究内容であり、成果が大いに期待される。 <p><参考意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ3の「特車フリー道路ネットワーク」のイメージが不透明である。これらを明確化するとともに、それに向けた検討の加速化と具体化が必要である。 ・ 自動判定、自動生成によって 100%の判定が困難であるとする、最終段階では人間による確認が必要になる可能性がある。それを受け入れるならば、人間による最終確認を容易にするシステムや仕組みも検討が必要かもしれない。 ・ MMS での道路上空間の把握が必須の場合、費用面での実装可能性についても検討をお願いしたい。 			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第45回新道路技術会議において審議したものである。